



BE THE INSPIRATION RI 会長 バリー・ラシン

2018-'19 Weekly Report

2018/11/21 15

クラブ会長テーマ 進化の足跡を残そう

第 2387 回例会報告

日 時：平成 30 年 11 月 14 日（水）

会 場：例会場

司 会：S A A

開会点鐘

斉 唱：ロータリーソング「奉仕の理想」

お客様の紹介

本日はいらっしゃいません。

会長報告

会長の代行は今年度初めてです。よろしく願いいたします。会長は故郷の広島の方へ行かれています。広島
の熊平製作所が制作している「抜粋の綴」が配られる頃
ですが、会長は社長とお知り合いだそうです。びっくり
した記憶があります。振り返ると、会長もここまでくると
緩やかな気持ちになるのかなと思います。

平川支店長は年末に向け、ここで講師に立てるのは幸
せで運がいいなと思います。卓話楽しみにしています。

幹事報告

●国立市社会福祉協議会の 50 周年式典が 11 月 10 日に
開催され、出席してきました。永年の寄付に対して感謝
状をいただきましたので、ご報告します。

委員長報告

● 50 周年総務財務委員会 遠藤常臣副委員長
11/21 例会後に案内状の送付作業を行います。委員の
方はお願いします。

寺澤委員長

内山副会長

内山副会長

内山副会長

小澤崇文幹事

ニコニコBOX

遠藤久親睦活動委員

●喜連元昭会長 本日の平川講師の卓話を楽しみにして
おりましたが、タマタマの所要と重なり拝聴出来ず残念
です。個人的に改めて機会を設けご教示頂ければと希望
する次第です。

●内山副会長 本日は会長の代行を務めさせて頂きま
す。宜しく願い致します。平川会員の卓話、楽しみに
しております。

●小澤崇文幹事 立冬が過ぎて徐々に寒くなってしま
した。今日は平川会員の卓話楽しみにしています。

●小澤孝造会員・吉野会員 多摩信用金庫国立支店長、
平川会員の卓話楽しく聞かせていただきます。

●杉田会員・寺澤会員 平川支店長の卓話、楽しみにし
ておりました。多摩のマイバンク「多摩信用金庫」の地
域の為の取組みを拝聴させていただきます。

●小川会員・木島会員・喜連紘子会員・近藤会員・秋山
会員・三田会員 平川会員の卓話楽しみにしていました。
業績良好と評判ですが、お金の貯め方もお教えいただけ
るものと期待しています。

●小沢国寛会員 当院のスタッフ 1 名に元気な男の子が
産まれました！

●プログラム委員会(遠藤直孝会員・村上会員・岡田会員)
多摩信用金庫の平川支店長の卓話、楽しみに拝聴いたし
ます。

*ニコニコBOX 合計 43,000 円 累計 918,000 円

出席報告

林出席奨励委員

11 月 14 日 在籍 51 名中 出席 34 名

前々回(10 月 31 日) 出席率 97.73%

閉会点鐘

内山副会長

Rotary



RI 第 2750 地区 多摩中グループ

東京国立ロータリークラブ

会長 喜連 元昭

幹事 小澤 崇文

例会日：毎週水曜日

例会場：谷保天満宮社務所 2 階 東京都国立市谷保 5209

事務所：東京都国立市谷保 5234-1 TEL:042-575-0770 FAX:042-572-8666

E-MAIL：kunitachi-rc@sage.ocn.ne.jp WEB：http://kunitachi-rc.com/

会報委員：岡本 貞雄・平川 貴浩・遠藤 直孝・千葉 伸也

「多摩信用金庫の取組み」



多摩信用金庫国立支店長 平川貴浩会員

■講師の紹介

遠藤直孝プログラム委員長

平川会員は昭和48年のお生まれです。平成7年に多摩信用金庫に入庫され、平成29年に国立支店長として赴任されました。

■卓話

平川貴浩会員

今日は、私の自己紹介と多摩信用金庫の取組みについて話をさせていただければと思います。

●自己紹介

私は男三人の末っ子として武蔵野市で生まれました。父は九州の熊本出身であり、母は栃木県出身であります。

小・中学校は小平、高校は都立国分寺高校、大学は吉祥寺にあります成蹊大学と、ずっと多摩地区で育ちました。それもあって、自分の育った多摩地域に貢献できる仕事がしたい。そんな思いから平成7年に多摩信用金庫に入庫しました。

現在は昭島市で家族4人、そして愛犬レフ（犬種はアメリカンコッカースパニエル）と一緒に生活しています。

妻は元たましんの職員であります。最初の配属支店で知り合い、平成10年に結婚しました。今は小学校の放課後教室やクロネコでパート活動をしています。

長男は大学1年生で、娘は高校2年生です。長男はバンド活動に夢中で、全国にライブに行っています。娘はダンス部に所属しており、全国大会に出場しました。

また、ピアノや歌も学んでいます。私以外、家族の共通の趣味は音楽であり、常に家の中では誰かが歌っています。私が歌が一番下手であり、鼻歌を歌っているとよく家族みんなに笑われます。

私の趣味、休日は少年サッカーのコーチをやっています。11年目になります。長男と共に、私はコーチとしての立場で小学校のサッカーチームに入りました。長男はもう卒業しました。父親である私は卒業できなく、いつの間にか自分の居場所として地域の子供達にサッカーを教えています。サッカーは高校までは部活で、また、社会人になってからは、たましんのサッカー部で活動していました。

審判の資格や日本サッカー協会のコーチの資格を取得しています。審判やコーチングにもきちんとした理論や行動規範があります。例えばフェアプレーの精神やリス

ペクト（相手を敬う）の精神、ルールの順守です。これはサッカーを通じて子供たちへの教育、仕事にも通じています。

今は、トップチームを担当しています。自分の子供ではなく、人の子どもを教育していくのは大変です。なぜなら育ってきた環境によって考え方や価値観が違います。

しかしながら、教える事で教わることも多いと感じています。卒業するころになると子供達は本当に立派になります。今年の正月、教え子が実践学園で東京都代表になり、全国大会に出場しました。テレビでも試合が放映されました。東京都の決勝戦・全国大会と我が子のように応援に行きました。

自分の高校時代、自分の子供が成しえなかった全国大会出場！教え子が夢を叶えてくれました。今年も全国大会に出場しそうな選手がいます。教え子がサッカーを通じて人として立派に成長していく姿が私自身、人生の糧にもなっています。

■多摩信用金庫の取組み

高いポテンシャルのある魅力ある多摩地域は、26市3町、7商工会議所21商工会あります。面積は東京都の65%、人口は東京都の31%、豊かな自然環境、ゆとりある居住空間、そうした土地を活用した研究開発型の企業が多く、また、多くの大学が多摩には存在し、芸術文化も盛んであります。

多摩地域を一つの県に見立てた場合の都道県ラインキングでは、人口は第10位（四国全域と同じ）事業所数は12位、大学数は4位となっています。

多摩地域の産業の特徴は研究、教育、電気機械製造業が多い事です。企業の研究開発拠点が集積する多摩地域、ヤクルト・オリンパス・日清等の研究開発センターが多摩地域にはあります。

多摩地域の事業所の開業率と廃業率状況です。全体としては開業が7.4%に対して、廃業は7.6%と廃業が上回っています。情報通信・宿泊・飲食サービス業は開業が多いですが、一方、電気・ガス・医療・福祉関係での廃業が多いです。

信用金庫とは民間金融機関であり、中小企業専門の共同組織であります。

■創業の精神

たましんがつけられた時代背景としては、昭和の金融恐慌の中、当時の立川の町では、銀行は中産階級以上の人のものでありました。融資の条件は厳しく、町の人々は不便を感じていたといわれています。

立川町長や府議会議員を中心とする地元有志47人が設立発起人となり、「相互扶助」のもとでお金を出し合い自分達の金融機関を設立させました。初代組合長は岩崎清重氏であります。そうした創業の精神、お客さまとの相互扶助の精神、お客さま地域との共存共栄の精神は今でも受け継がれています。

■多摩信用金庫概要

多摩信用金庫の設立は昭和8年12月26日です。現在は店舗数79、出張所4、役職員数2,242名、総預金2兆7261億円です。(全国261信金中5番目)

■たましんの経営理念

たましんは、お客さまの幸せを創造する企業です。たましんの仕事は「お客さまの幸せづくり」です。そしてその目的は、多摩地域の持続的な繁栄とそこに住み、暮らし、働く人それぞれのくらしの安定の実現であります。

■地域金融機関としての役割

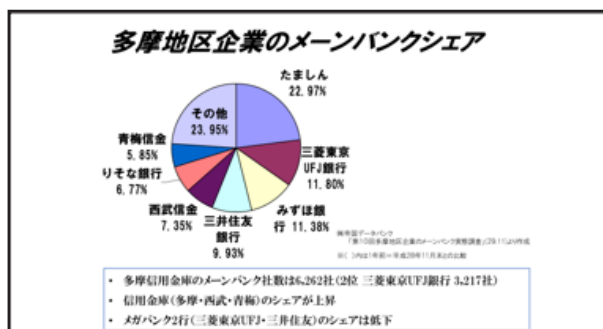
たましんでは、多摩の明るい未来を創造していくため、長期、中期経営計画が作成されています。そうした計画に基づき、長期的な視点に立って「お客さまにどのような支援ができるのか」を常に考え、職員が誇りとやりがえを持って全力で課題解決ができる職場風土や体制などを構築して、お客さまの課題解決を通して「多摩の明るい未来」を実現できるよう前向きに取り組んでいきます。

■地域貢献の自己評価について

課題解決活動の結果として、地域貢献度を客観的かつ継続的に自己評価するため、幸福度をはじめとした全53の指標からなる「ビジネスモデル評価指標」を設けております。

■多摩地区企業のメインバンクシェア

帝国データバンク調査で、多摩地区企業のメインバンクシェアは、たましんが22.97%でトップです。それだけに地域をよくしなければならぬ責任もあります。



■広報たまちいき

多摩地域の魅力や旬を伝えるために、毎月発行しています。どんな企業も創業→成長→再生→事業承継とサイクルがあると思います。

たましんでは、ライフステージやライフサイクルに合った1先ごとの課題に合ったお手伝いをさせていただいております。

■創業支援など

ミニブルーム交流カフェでは、創業の準備、ブルームセンターでは創業の場の提供、創業支援機関とも連携し、創業のサポートを行っています。

成長支援の一例。多摩ブルー・グリーン賞は、創業70周年記念として始めました。優れた技術・経営されている企業を大学・研究機関・報道機関に評価してもらい表彰します。毎年130~140社ぐらい応募して頂いております。

多摩の物産&輸入商談会は、販路拡大のため、中小企業を大手に紹介します。

地域資源のマッチング例として「しょうゆかりんとう」があります。

『たま NAVI』は2か月に1度発行しています。地域の企業・行政・公共機関へビジネスマッチング情報誌として28,000部お届けしています。

事業承継支援としてTAMA NEXTリーダープログラムがあります。後継予定者に参加して頂き、企業経営について勉強してもらいます。

■大学や自治体との連携

多摩にはたくさんの大学があります。大学の持つ専門性を地域のお客さまへ繋ぐかけ橋として活用して頂ければと思います。また、各市と産業活性化連携や職員相互派遣を実施しています。

■まとめ

日本の99.7%、420万社は中小企業です。中小企業は大企業と違い、様々な課題があると考えています。そのためには、たましんがお客さまの幸せづくりのために地域の課題解決のインフラとしての役割を果たし、事業所・個人・地域の課題を解決していく。そしてお客さまがよくなり、地域がよくなる。それがたましんのビジネスモデルであり、数多く実践していかなければならないと考えています。「現在は過去の結果である。」「現在は将来の原因である。」という言葉があります。

20年、30年後の多摩地域の明るい未来の為に、今は国立支店長として国立地域のお客さまのために課題解決活動を実践し、地域の明るい未来の原因をしっかりとつくっていきたいと思います。



BE THE INSPIRATION

インスピレーションになろう

Governor's Message

国際ロータリー第2750地区 2018-19 年度ガバナー 服部 陽子



11月はロータリーのカレンダーでは、「ロータリー財団月間」となります。ロータリー財団は、今から101年前、時のRI会長であったアーチ・C・クランプが「ロータリーには基金が必要だ。基金を作って世界でよいことをしよう」と呼び掛けたのがその始まりで、今日では世界に誇る大規模かつ優良な米国NPO財団となっています。ロータリー財団に寄付をする

のも、またその寄付されたものを奉仕活動に活かすのもロータリーアンです。

さて、寄付には、年次基金への寄付(3年後に奉仕プロジェクトに使用する)と恒久基金への寄付(使用せずに備蓄していく)そして用途指定寄付(ポリオ撲滅のように具体的な使用目的を特定して寄付をする)があります。毎年一人150ドルの寄付をお願いしているのは年次基金の方です。集まった寄付金は、補助金という形で世界中のクラブが使用することができます。補助金には地区補助金とグローバル補助金の2種類があります。以前は奉仕プロジェクトに使うのか、それとも奨学金として使うのかで使い分けしていましたが、5年前に新システムになってからは、「人道的奉仕の6重点分野」に入るものか、入らないものかでグループ分けをするようになりました。グローバル補助金は「人道的奉仕の6重点分野」のいずれかに入る国際奉仕プロジェクト、あるいはその分野を学ぶ学生の奨学金として使用することができます。地区補助金は、それに加えて、文化や芸術、高等教育などにも広く使えます。

ここからは、「人道的奉仕の6重点分野」について説明したいと思います。6重点分野とは ・平和と紛争の予防と解決 ・疾病の予防と治療 ・水と衛生 ・母子の健康 ・基本的教育と識字率の向上 ・経済と地域社会の発展 であり、これは当初はロータリー財団が人道的奉仕の重点分野として掲げたものでしたが、のちに国際ロータリーでもこれを優先事項として共有することとなり現在に至っています。3年前に新しくなったロータリーの特別月間にはこの6重点分野が全て入っていて、因みに来月12月は、「疾病の予防と治療月間」となっています。

グローバル補助金をクラブの奉仕プロジェクトに使用しようと計画した時には、そのプロジェクトがこの6重点分野のいずれかに入るものであること、そして、プロジェクトが実施される国のロータリークラブと合同で行うこと、の2点が必須の要件となります。私の所属する東京広尾ロータリークラブは、ケニアで安全な飲料水がない場所に井戸を掘って飲料水を確保するというプロジェクトを、イーストナイロビロータリークラブと共にグローバル補助金を利用して行いました。井戸を掘るプロジェクトなので、6重点分野で言えば、「水と衛生」に入るプロジェクトと考えて申請書を書き承認されて寄付金をいただきました。しかし、このプロジェクトを経験してみると、井戸ができて清潔な水が飲めると伝染病で命を落とす人が減るので、「疾病の予防と治療」にも関連することがわかりました。又、井戸が出来る前には、子供や女性は毎日2時間もかけて遠くの地へ家族のための安全な水の確保に出かけていましたが、井戸ができてからはその必要がなくなり、学校へ行くことができるようになったということですから、「基本的教育と識字率の向上」にも役立っています。また、ケニアは民族間の闘争が多いところなのですが、命にかかわる水を求めての争いが大変多いということなので、水を供給できるようにすることは「平和と紛争の予防と解決」に繋がってきます。そして、紛争こそがその地の経済発展の大きな妨げとなっているので、紛争が減れば、「経済と地域社会の発展」にもよい効果をもたらします。つまり、人道的奉仕の6重点分野というのは、実は全部繋がっているわけです。6つの項目が書かれた表を見るとそれぞれの分野に分かれているように見えますが、人が人間らしく最低限のものを与えられて安全に生きることができるという環境はひとつであり、線引きがないのだらうと思います。6重点分野はどこから入っていくかという入り口に過ぎないのだとわかりました。

この環境が与えられた先にあるものは、人の心を豊かにしていくことだと思います。6重点分野で身体の空腹が満たされたら、次は心の空腹を満たすことが必要です。音楽、美術、文学、そして高等教育といったものが人の心を育みます。人は豊かな心を以って世界平和を創りだしていくのでしょ。ロータリーの奉仕の力が世界平和に益々寄与していくことを願っています。